

講義名	心理学実験 /心理学実験演習	授業形態	
担当教員	池田 曜子 / 銅直 優子 / 福田 哲也 / 吉村 典子	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 1 時限 / 後期 金曜日 2 時限
		単位数	4
		履修開始年次	2 年生
		ナンバリング・コード	EXP280

主題と概要

心理学は、観察、実験、調査、面接から得られたデータを分析することによって、人間の心理・行動を議論する。この授業では、実験、観察、調査を実際に行い、それらの報告書である心理学実験レポートの作成を学習する。

第1課題は、錯覚の一種であるミュラーリヤーの錯視の実験である。ミュラーリヤーの錯視は長さの錯覚であるが、実験に使用される矢羽の角度によって、この錯覚がどのように変化するかを測定する。この課題から、実験室実験の論理を学ぶ。

第2課題は、錯覚の一種であるミュラーリヤーの錯視の実験である。ミュラーリヤーの錯視は長さの錯覚であるが、実験に使用される矢羽の角度によって、この錯覚がどのように変化するかを測定する。この課題から、実験室実験の論理を学ぶ。

第3課題は、心理尺度を用いた心理調査である。心理学では、心に関わる構成概念を測定する方法として心理尺度が多用され、複数の尺度間の関連を検討することが多い。本課題では、心理尺度を用いた調査の体験と調査票の作成を行う。加えて実際に測定したデータを解析し、相関関係について体験的に理解を目指す。

第4課題は、観察法を用いた調査である。私たちは、常にその場にいる人の表情や行動を観察することから、関係性や心理状態を推測している。本課題では、観察法という研究の基本と、行動観察によるデータの収集と分析、およびレポート作成について、実際にデータを収集し分析することで体験的な理解を目指す。

第5課題は、顔に映った図形を見ながらその顔描写を題材とし、知覚運動系協応の成立過程を確認する。また、片方の手での練習がもう片方の手の運動に効果があるのかを確認し、両側性転移について考察する。

第6課題は、SD法を使用した印象評価測定の調査である。化粧に用いる色によって人の印象はどのように変わるかについて実際に調査を行っていく。

第7課題は、輪投げを使って「要求水準」に関する実験を行う。要求水準とは、与えられた課題に対する個人の自覚や期待の基準のことである。実験では同じ課題をする中で、要求水準の立て方の個人差（性格特性）を明らかにし、人が課題に取り組み時の動機づけや、入がどのようなときに満足を感じるか、性格特性との関連も含めて考察する。

到達目標

心理学的現象を科学的に証明するための実験・調査手法を理解することができるようになる。

実験・調査のデータが分析できるようになる。

Excelを併用し、表やグラフを作成することができるようになる。

実験や調査結果をもとに報告書を作成することができるようになる。

提出課題

授業中におこなった実験・調査に関する報告書を最終レポートとして提出してもらう。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

レポートとして提出された実験・調査に関する報告書は添削し、修正点等のフィードバックが行われる。

評価の基準

受講中での実験取り組みの態度や理解度（50%）
最終レポート(50%)

履修にあたっての注意・助言他

毎回の出席と6種類の実験のレポート作成が必須となる。

1回でも欠席する（遅刻の場合は15分未満が3回）と、レポートの作成が困難になるため、原則、遅刻・欠席をしないように気をつけること。

レポートをすべて提出していても、点数が60点以下の場合単位取得はできない。

なお、この科目は認定心理士資格取得の必修科目である。

資格申請時には、実習リストの提出が求められる。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

プリント資料を授業中に配布

授業計画

- 1 実験レポートの書き方とミュラーリヤーの錯視に関する講義 / 実験の実施 (担当: 福田)
復習内容: 講義内で指示のあった部分について次の講義までに作業を完成させる (240分)
- 2 実験データの分析 / 実験レポートの作成 () (担当: 福田)
予習内容: 配布資料を受講前までに熟読し、理解できない部分を明確にし、受講時には不明な部分について質問ができるようにしておくこと (60分)
復習内容: 講義内で指示のあった部分について次の講義までに作業を完成させる (180分)
- 3 実験レポートの作成 () / 心理尺度を用いた調査の体験と調査に関する講義 (担当: 福田)
予習内容: 配布資料を受講前までに熟読し、理解できない部分を明確にし、受講時には不明な部分について質問ができるようにしておくこと (60分)
復習内容: 講義内で指示のあった部分について次の講義までに作業を完成させる (180分)
- 4 調査票の作成 / データの分析 (担当: 福田)
予習内容: 配布資料を受講前までに熟読し、理解できない部分を明確にし、受講時には不明な部分について質問ができるようにしておくこと (60分)
復習内容: 講義内で指示のあった部分について次の講義までに作業を完成させる (180分)
- 5 レポートの作成 () / レポートの作成 () (担当: 福田)
予習内容: 配布資料を受講前までに熟読し、理解できない部分を明確にし、受講時には不明な部分について質問ができるようにしておくこと (60分)
復習内容: 講義内で指示のあった部分について次の講義までに作業を完成させる (180分)
- 6 顔映写実験の説明 / 実験の実施 (担当: 吉村)
予習内容: 配布資料を受講前までに熟読し、理解できない部分を明確にし、受講時には不明な部分について質問ができるようにしておくこと (60分)
復習内容: 講義内で指示のあった部分について次の講義までに作業を完成させる (180分)
- 7 実験データの分析 / 実験レポートの作成 () (担当: 吉村)
予習内容: 配布資料を受講前までに熟読し、理解できない部分を明確にし、受講時には不明な部分について質問ができるようにしておくこと (60分)
復習内容: 講義内で指示のあった部分について次の講義までに作業を完成させる (180分)
- 8 要求水準の実験の説明 / 実験の実施 (担当: 吉村)
予習内容: 配布資料を受講前までに熟読し、理解できない部分を明確にし、受講時には不明な部分について質問ができるようにしておくこと (60分)
復習内容: 講義内で指示のあった部分について次の講義までに作業を完成させる (180分)
- 9 実験データの整理 / 実験データの分析 (担当: 吉村)
予習内容: 配布資料を受講前までに熟読し、理解できない部分を明確にし、受講時には不明な部分について質問ができるようにしておくこと (60分)
復習内容: 講義内で指示のあった部分について次の講義までに作業を完成させる (180分)
- 10 実験レポートの作成 () / 実験レポートの作成 () (担当: 吉村)
予習内容: 配布資料を受講前までに熟読し、理解できない部分を明確にし、受講時には不明な部分について質問ができるようにしておくこと (60分)
復習内容: 講義内で指示のあった部分について次の講義までに作業を完成させる (180分)
- 11 SD法を用いた「印象評価」測定の理解 / 調査票の作成 (担当: 銅直)
予習内容: 配布資料を受講前までに熟読し、理解できない部分を明確にし、受講時には不明な部分について質問ができるようにしておくこと (60分)
復習内容: 講義内で指示のあった部分について次の講義までに作業を完成させる (180分)
- 12 データ分析 / 分析結果の理解と結果の記述 (担当: 銅直)
予習内容: 配布資料を受講前までに熟読し、理解できない部分を明確にし、受講時には不明な部分について質問ができるようにしておくこと (60分)
復習内容: 講義内で指示のあった部分について次の講義までに作業を完成させる (180分)
- 13 レポート作成について (担当: 銅直) / 心理学研究方法としての観察法の特徴 (担当: 池田)
予習内容: 配布資料を受講前までに熟読し、理解できない部分を明確にし、受講時には不明な部分について質問ができるようにしておくこと (60分)
復習内容: 講義内で指示のあった部分について次の講義までに作業を完成させる (180分)
- 14 観察調査 / 調査データの記入 (担当: 池田)
予習内容: 配布資料を受講前までに熟読し、理解できない部分を明確にし、受講時には不明な部分について質問ができるようにしておくこと (60分)
復習内容: 講義内で指示のあった部分について次の講義までに作業を完成させる (180分)
- 15 調査データの分析 / 調査レポート作成 (担当: 池田)
予習内容: 配布資料を受講前までに熟読し、理解できない部分を明確にし、受講時には不明な部分について質問ができるようにしておくこと (60分)
復習内容: 講義内で指示のあった部分について次の講義までに作業を完成させる (180分)

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	○	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

目標を達成することで、DP の「社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる」に貢献できる。

目標は、より良い人間社会を創造することは直接的には貢献しない。

を達成することで、DP の「職業の社会生活技能、七ツタに具体的に活用することができる能力となる。」

目標を達成することで、DP の「心理学の研究方法に関する基礎的知識」を身につけ、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

双方向授業は実施しない。

実務経験の有無及び活用

備考